

鳥の研究ができる学部・大学院

(2016年5月28日作成)

兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科

課程と学位：博士前期課程および博士後期課程、学位：修士（学術）；博士（学術）

開設年度：2014年4月に独立大学院として開設

鳥類研究の指導ができる教員

- ・江崎保男（研究科長・教授・京都大学理学博士：博士後期開設にともない完成年度である2019年3月まで定年延長・在籍の予定）、
- ・大迫義人（准教授・大阪市立大学理学博士）

学生と研究テーマ

2016年5月現在：博士前期課程に在籍する学生24名中、4名を江崎教授が指導、1名を大迫准教授が指導している。院生たちは、キャンパスが存在する兵庫県立コウノトリの郷公園によって色脚環を装着され、完全個体識別されているコウノトリを主たる研究材料として、動物生態学（行動生態学を含む）の研究を行っている（サギ類との比較研究、鳥類群集の研究を並行して行っている学生もいる）。江崎教授の定年退職後も、鳥類を研究材料とする教員が補充され、常時2名の教員が鳥類を研究材料として教育研究を行う予定。

アトラクティブポイント

兵庫県北部を中心に現在、野外繁殖しているコウノトリ *Ciconia boyciana* は、日本の繁殖個体群が絶滅した後、再導入＝野生復帰したものであり、今は個体群再生のプロセスにある。コウノトリは極東に分布が限られているので、その生態研究においては日本が世界のトップを走っていると同時に、面白い研究テーマに事欠かず、オリジナルな研究ができる。また「学生自身がやりたい研究をする」のがモットーなので、研究材料はコウノトリに限らない。また、キャンパスの背後には里山があり、前方には川が流れ、水田が広がっているので、周辺にはコウノトリだけでなく、多種多様な鳥類が生息・繁殖しており、キャンパスにいながらにして研究ができる（院生室から脚環つきコウノトリの観察ができる）。また、野生復帰事業は「官民学の連携」を旗印にしており、「研

究のための研究」にとどまらない、「行政・住民と連携した生物多様性の保全・復元」が院生たちの大きなテーマとなっている。

さらに研究科自体が「文理融合」なので、地球科学・歴史学・社会学等の教員も近くにおり、幅広い教養を身に付けることができる。